

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版) 4.76.xls | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区椿町計画	階数	地上12階
建設地	名古屋市 中村区 椿町1510番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	228 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年8月10日
敷地面積	418 m ²	作成者	
建築面積	271 m ²	確認日	2022年8月25日
延床面積	3,274 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.4 ★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30%

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 自然環境に配慮し、周辺環境に調和するように建物を計画し、室内環境の快適性に配慮した。また、外壁に既製品を使用し、CO ₂ 排出量の削減に努めるなどして、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。		
Q1 室内環境 遮音性の高いサッシ・外壁材の採用や、外壁・屋根・Low-E複層ガラスなどの高い断熱性能による日射熱負荷の低減により室内環境の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上材を用い、シックハウス対策に配慮した。	Q2 サービス性能 居室内は二重天井及び二重床、天井高を2.65m確保し、メンテナンス・部分変更対応等に配慮したゆとりある室内空間の確保に努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺地域に対してゆとりをもたせるため外壁面をセットバックして圧迫感を軽減し、良好な景観を形成するように配慮した。
LR1 エネルギー 全熱交換器や高効率ヒートポンプエアコン等を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の採用、ノンフロンの使用により、環境に配慮した。	LR3 敷地外環境 周囲の交通状況を考慮し、駐車場は敷地外(敷地より300m以内)に設け駐車場付置義務必要台数を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区椿町計画

- 使用評価マニュアル:
- 評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.9
2. 自然共生	評価点 = 1.6
3. 循環型社会	評価点 = 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。